

成果指標				
成果指標	備品照合指導件数			
指標設定の考え方	適正な備品管理を行うために定期監査に先立ち備品照合を行っており、指導件数が少ないほど管理が行き届いていると判断できる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	5以内	5以内	5以内	5以内
実績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	新・備品システムが運用となり、様々な問題が発生したが管理会社と調整し対応することができた。しかし、備品システムが物品要求、支出命令、備品台帳に連携していないため、事務の効率化が図れていない状況と考える。今後は、システム改良や出先機関へのPC増設等について費用対効果を検討し実施する必要がある。すべての備品や一定額以上の消耗品等について財務課にて一括発注しているが、同種の物品発注の有無を各課に照会し、効率かつ経済的な執行が図れた。また、発注先についても十分検討し適正な執行ができたと考える。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	物品購入に係る現行システム(一定の物品について財務課で発注)は、透明性及び公正性を確保する上で引き続き維持するべきと考える。所管課で発注できる案件で、発注先や価格について監査委員から問題ありと指摘された。所管課での安易な発注を抑制し公正な物品調達を実現できるように努める。備品管理に関するシステムの改良を検討する。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	財政運営が厳しい中、物品の調達についても無駄を省き、効率的な運用を実施しなければならない。発注方法や事務費の予算要求のあり方等について検討すること。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。